

## 「福祉とアイデンティティ」

阿部幸泰

（国立療養所西多賀病院 指導室長）

〔はじめに〕

只今ご紹介いただきました西多賀病院の阿部と申します。

鍛先生から今日のお話いただきました時に、「いったい何人の生徒さんにお話するのですか」と聞きましたら「800人くらいです。」800人を満足させる話なんてできない、色々考えました。一体自分の今やっている専門の福祉のことを話した方がいいのだろうか、正直言って色々考えました。

そこで今日はなるべく自分がこの30年間関わってきたことの中から、今15、16、17才の僕からすれば後輩諸君に、福祉というものを通して、人間というものを、自分自身というものをどう考えて行くか、その参考になることを話したいと思います。

ですから、800人全員に共感を得るような話、できる自信は全くありません。興味のない方もいらっしゃると思いますが、まあそれはそれとして、こういう機会を与えてくれましたので、自己紹介がてら今の西多賀病院という所がどういうお子さんを預かっているかということから話したいと思います。

私の病院は仙台にありまして、国立療養所西多賀病院といいます。国立療養所と言う名前がつく病院は、長期、つまり一時的に病院に入院して治らない人達が入院しています。

〔筋ジストロフィー〕

まず、筋ジストロフィーという、日本語で訳すと進行性筋萎縮症という方々があります。

進行性ですから、小学校にあがるくらいまでは、皆さんのように普通なのです。それが小学校へあがる頃から、少しずつ歩き方が変になってきて、その内歩けなくなり、車椅子になり、そうする内に車椅子に乗っても今皆さんが座っているように座位の姿勢がとれなくなり、その後は寝たきりになります。そして、一昔前までは、皆さんと同じ年頃の時に亡くなる方が多かった、現代医学では治せない病気の方々が160人います。

筋ジストロフィーといっても色々な型がありますが、一般的にはその原因は、染色体上の遺伝情報のある部分の異常によるものといわれています。

どういう病気かということを知り易くいえば、稲を脱穀した後、藁の束を上と下を百本くらいぎゅっと束ねて結ぶと、縦に持ってもしっかりと藁の束は立っていますよね。それが、その百本の束を10本抜き、20本抜き、30本抜いていくと、これがへにゃーっと曲がってきますね。つまり筋肉が萎縮していくということは、皆さんの筋肉は筋肉繊維の束で、例えば手の筋肉もそうしてできています。それが染色体の影響で、筋肉の繊維が形成されないと力が入らないので、手をあげることができない。指先の筋力は何とか最後まで残るのです。ですから、ここにコップがありますね。普通ですと皆さんにコップ取ってというと、こう（腕を伸ばして）取りますよね。でも筋ジストロフィーの人達は筋肉の繊維が段々なくなっていきますから、腕を挙げるだけの筋力、つまり力がないので、指でこう（机の上を指を這わして）手をリードしていくしかないのです。そうしてやっと腕を自分の取りたいものに近づけて、まあコップはちょっと大き過ぎて持てないかも知れませんが、鉛筆ですとこう（指で摘んで）持つ。さらに、病気が進行すると鉛筆すら持てなくなる。すると彼らはどうして勉強するか。つまり鉛筆を口に加えるのです。そして寝た姿勢で、先生がセッティングしてくれたノートとか紙に口で書くのです。こうして勉強しているのです。最近はパソコンがありますので、あれこれ工夫して活用しています。

#### 〔重症心身障害児〕

そして他に病院には重症心身障害児、略して重症児という方々がいます。

重症児というのは、病名でなく福祉行政上の呼称概念で、重い身体的な障害と、重い知的障害を合わせもった方々です。

こうした重い重複した障害の原因となる病気も現代医学では治せ難いものが多いです。何らかの病気が原因となって、脳細胞、脳神経に障害が起こり、身体的にも知的にも重い障害が残るということになります。

その一つとして次のようなことがあります。

みなさんもしずれお父さん、お母さんになるのですが、出産周辺の異常で脳に酸素がいかない時間が、まあ一般的にいわれているのは3分間脳に酸素がいかないと脳細胞が死んでしまいます。すると、脳に障害が起きる。それぐらい脳細胞というのはものすごく、繊細で大事なものです。自分の頭を右手でも左手でもいいから少し叩いてみてください。

固いでしょ。つまり頭蓋骨が脳を守っているのです。ですからここにいる男子の連中、女子の連中もこの頃はけんかするかも知れませんが、けんかする時は頭を殴らないようにね。頭というのはそれぐらい大事なところですからけんかの時には頭は殴らない。

僕の話は時々横道にそれますが、その方が本当は話したいことが多いのですが、では腹はいいのか、胸は叩いていいのか。これが、今のテレビが困ってしまう。けんかの場面でぼかすかぼかすか殴っちゃう。それでもTVの中では殴られても立ちあがる。本当はそんなことはないのですよ。人間の体というのはものすごくもろくできている。ですから、パンと胸なんか殴られると肋骨が折れて、肋骨が内臓に刺さったりしたら本当に死んじゃいますからね。また、腹を蹴ったらそれこそ腸や内臓が破裂して死んじゃいますからね。

テレビのように、あんなにぼかすか殴れる程人間はタフではないのです。人間というのは、生物学的に言えば、ものすごくもろい存在なんですよ。

また、若いお嬢さん方、ここにもいらっしゃるけれども、OLになったり大学に進学したりするでしょうけれど、彼氏にもてたいとかいってダイエットなんて考えないように。

そういう風にして自分はやせよう、やせようなんて思っていると、いざお産の時には、体力がないのでお産に耐えられないで母親が眠ってしまう。赤ちゃんが産道から出てくるのに時間がかかる。いわゆる難産になってしまう。その時に何らかの影響で酸素が脳に行かないと、障害児、重度の障害児が生まれる可能性があるのです。

ですから、重症児に関していえば、みなさんのお子さんに生まれえないという保障はどこにもない訳です。人口比でいえば、重症児はだいたい一万人に2人か3人。先の筋ジストロフィーは、10万人に2人か3人、といわれています。先ほど校長先生に聞いたら、淡路島の人口はだいたい13万から14万だそうです。ですから筋ジスの方は2人か3人いるかないか。重症心身障害児は1万人に2人か3人ですから、かなりの数があるはずですね。でも、たぶんお世話するのが大変でどこかの施設には入っていると思いますが。

#### 〔専門家の苦悩〕

私はそういう現代医学では治らない子ども達をずっと30年間接してきました。

医学で治らないのにじゃあ何でそういう子ども達を病院に入れているのか。この子ども達と接していると、否応なく自分自身のことを考えることになるのです。医者も悩みます。医学というのは病気を治すためにある科学でしょ。それが治らない患者さんを目の前にした時、医者は、じゃあ医学と何なのかと悩む。

重症児というのは重度の知恵遅れをもっていますから、しぐさは、もう本当に幼児の1歳かよくて2歳くらいの行動しかできない。お座りすることもできない。しゃべることもできない。ご飯も自分で食べられない。要求することは、いくら体が大きくなっても、小さい子どもがお母さんにおんぶしてもらいたいと同じように、おんぶしてもらいたがる。体が大きい子どもをおんぶすることは大変ですよ。また横道にそれますが、ここにも保育士さんになろう、老人ホームに勤めようという人もいると思うのですが、絶対に腰を痛めますよ、職業病ですね。

学校の先生にすればそういう子ども達に何を教育するか、という話です。悩みますよ。

自分が大学で一生懸命教育について勉強してきたことが何の役にも立たない。いったい教育と何なんだ、と先生方自身悩む。看護師さんは看護師さんで悩み、保育士さんは保育士さんで悩む。この子達と接していますと、世の中で解ったように思っていたことが何にも本当は解っていない。教育と何ですかと子ども達が突きつけてくるのです、我々に。

今まで教育だと思っていた概念だけで、そういう重度のちえ遅れの人達の教育を考えるためにどうしたらいいか解らなくなってしまう。そうすると、学校の先生自身が、もう一度自分の考える教育と何かということを組み立て直さなくてははいけない。

[専門家としての厳しさ]

こういう子ども達は、お世話してもらわないと生活していけないし、極言すれば生きてもいけない。

皆さんの中にもいるかもしれませんが、学校が嫌になった、登校拒否しよう、死にたいと思っている人もいるかもしれない。皆さんは、自殺しようと思ったらできますよ、歩いて行って洲本港の灯台から飛び降りればいいのですから。でも彼らは、自ら死にたいと思っても死ねないのです。だって、車椅子に自分で乗れないでしょ。「死にたいので今から死にに行きますから車椅子に乗せてください」と職員に言っても、まさか職員はそのために乗せたりしないですよ。このように彼らは自分の障害から逃げようと思っても逃げられないのです。そういう彼らと接している僕から今のいろんな高校生の云々の問題をマスコミ等で聞くと、贅沢だなあと思うのですね。あなた達はいろんなことができる条件を持っていながら、なんであんなことをするか。苦悩することがあなた達年代の特徴であるとは云え、今からお話しますが苦悩自体は素晴らしいことなのですが、僕からみれば、彼らの問題と較べて考えると贅沢に甘えていると思わざるを得ない側面を感じます。

そして、色々考えていくと、人間の幸せとは何なのかというところに行き着いてしまいます。だって僕の接してきた重症児は当初は二十歳前で死ぬと言われていた。筋ジスも一昔前までは15、6歳で死ぬと言われていた。彼らと接していると、生きるとはどういうことだろうと考えざるを得ないのです。命とは何だろうと、否応なく突きつけられるのです。それを、格好良く言葉で彼らに説明しても、彼らは感受性豊かですから「あっ、この人は言葉だけで自分を励ましている」と一瞬に見抜かれますからね。

ここで何をいいたいかと言いますと、お世話する側の職員、例えば僕であり、この中で介護福祉士を目指し、医学部を目指し、保育士を目指し、専門学校に進もうと人が何人かいると思うのですが、まず自分自身が自分の命を大事にし、自分自身の命とは何なのか、どういうふうに充実して生きていくかということを実際に考えていないと、言葉は相手に伝わらないということです。一瞬に見抜かれます。福祉の仕事が大変だというのは、そういうことが大変なのです。お風呂に入れて肉体労働をしないといけないから大変だとか、そんなことが大変なことではないのです。自分自身、常にしっかりしたスタンスで生きて行っていないと、彼らに見抜かれてしまうということです。彼らに見抜かれますと近付いてきてくれない、コミュニケーションがとれないということになる。そこに福祉というものの本当の厳しさがあるのです。

このことは、今ここに先生方もいらっしゃいますが、授業も同じでしょ。先生が必死になって一生懸命教えてくれても、この先生の言ってることと平日頃の授業時間以外の態度を見ると、「あーあ、この先生、授業だからああいうこと言ってるだけだ。平日頃のあの態度は何だ」と。そういう先生の授業を聞く気にもならないでしょ。そういうものなのです。

〔福祉とは〕

今日の本題に戻りますけれど「福祉とアイデンティティー」。

「福祉」というと今話してきたように障害者の問題、老人問題、また社会的弱者のことを考えるのが福祉とたぶん皆さんは思っていると思います。それだけが福祉ではないのです。今日帰ったら広辞苑を開いてみてください。広辞苑が家にはない人は職員室の先生の机にあります、見せてもらってください。

「福祉」のところに一番最初に書いてあることは何か。誰か広辞苑を開いて調べてみたことある人います？

そこには、「幸せ」と書いてあります、「幸福」と書いてあります。

つまり福祉というのは、社会の一部の人達の問題を考えることが福祉ではないのです。一人ひとりの幸せを考えることが福祉なのです。みんなだって幸せになりたいですよ。

幸せになりたくないと思っている人、ちょっと手を挙げてもらえますか？ いないでしょ。いるはずがないのです。人間というのは、産まれたからには自分は幸せになりたいと思うのはこれは当然なことで、人間のメカニズムといってもいいことなのです。では、幸せとは一体何なのか。どうしたら自分自身幸せというものを考えて行けるか。

〔アイデンティティーとは〕

そこで、次に演題に掲げてある「アイデンティティー」の問題につながります。

アイデンティティーの言葉の意味が分かる人います？ どんなことでも結構です、手を挙げてみてください。最近新聞でもよく出ていますよ。

アイデンティティーの言葉が解らなくても、パソコンでメールをやっている人、自分でパソコンを一生懸命やっている人、何人くらいいますか？

Eメールとかホームページを開こうと思ったらプロバイダからID番号というのがきますよね。「アイデンティティー」、そこから来てるのですよ、IDというのは。つまり、その人固有のものという意味でID番号なのです。

ですから、その人固有の、固有の存在、社会におけるその人そのものの存在、それがアイデンティティーということです。

先ほどいいましたが、福祉というのは、一部の人を考えるのではない、自分のことを考えるのが福祉である。では、福祉というものを考えるのはどういうことなのか。

それは、生きている意味を自分自身感じたいということです。それがアイデンティティー。

では、アイデンティティーとか幸せとかいうことをどのように考えるのか。

これは結論から先にいいます、答えはないです。それを追い求めて、考え続けていくこと、自分自身がアイデンティティーを求めて生きていく、そのことなのです。

そのことを、私の接している筋ジスとか重症児といわれる方々の事例を交えながらお話ししたいと思います。

〔勉強するとは〕

先ほどいいましたように筋ジスの青年は君達と同じ年頃です。彼らは、病院に隣接した養護学校がありますから、中学校までは義務教育ですので通えますが、以前は高等部はなかった。彼らがもっと勉強したい時は、仙台一高、かの有名な仙台一高の通信教育にチャレンジするのですね。

西多賀養護学校にも高等部作る話が持ち上がった。その時に、いの一番に反対したのは誰か。誰だと思えます？ 考えてみてください。

それは、通信教育を受けている彼らだったのです。なぜか。

高等部ができると一年生に入学して三年間たいして勉強しなくてもたぶんトコロテン式に卒業させられてしまうだろう。おれ達は勉強したいのだと。

通信教育でレポート書くのは大変ですよ。まして先ほど言いましたように、手が不自由。

そういう状況でレポートを作ることは大変。でも勉強するということはそういうことじゃないかと。トコロテン式に出すような高等部は西多賀養護学校には要らない。主張したのは彼らです。まあそういわれましても高等部はできましたけどね。

つまり人間というは、みんな勉強したいのですよ。

ごめんなさい、洲高の先生方怒らないでほしいのですが、ただ授業がおもしろくないから勉強が嫌いになっただけなのです。本質的には勉強をしたいのです。

例えば、先ほどいいましたように、筋ジスの人達、重症児もそうですけれど、昨日まで元気に職員と話をしていた。今朝行くとね、「何々君、亡くなったよ」。こうしたことはよく経験します。つまり彼らにとっては命の長さとは何かという話です。生きることは、命の長さのことではないのです。

その15、6歳で死ぬと言われている、その時間を自分自身、さっきいいました福祉、自分自身が幸せになりたい、自分の存在意義とは一体何なのかということを実際に考える、そのプロセスが生きているということだと彼らは我々に教えてくれているのです。

他の例として、病室の個室に入り、酸素吸入を受けるような様態になる人がいます。それでも、彼はアインシュタイン理論の本を個室に入っても離さなかった。

普通の病気ですと個室に入っても手術をすれば、病気が治ればまた本を読める。

でも筋ジスの彼らが個室に入るということは、もう即、死が近いということは彼ら自身は知っているのです、友達が亡くなっていくのを見てますから。

そうすると、俺は勉強しておく余裕のなかったアインシュタイン理論をやはり読んでおきたいと思うのです。そこで読みかけの本を個室に入っても読む。

つまり青年達というのは、それぐらいの情熱とひた向きさと自分自身の願いをかなえようという素晴らしいものをみんなももっているのです。「おれにはそんなのねえわ」と思っているだけの話なのです。いざそういう状況になるとそうなるのです。

〔「優しさ」と「偽り」〕

例えば、日頃人に世話をしてもらえないと生活して行けない彼らがですね、この頃は社会的な福祉が充実してきていますから、映画を見に行きたい、モーニング娘のコンサートに行きたい、車椅子でね。この頃タクシーも車椅子を乗せてくれますからね。

ある青年ともう一人とそのお母さんがタクシーで街に出かけました。繁華街でタクシーから車椅子に移り移そうとした時に、介助する運転手さんが日頃慣れていなかったのか、どこかにぶつけたらしい。その時は何ともなくという感じで帰院した。するとやっぱり腫れてきた、脛が。腫れてくるものですから、レントゲンを撮った。そしたら骨折してた。すると共に行った友人の母親がタクシー会社に電話をした。お宅の会社の運転手の扱いが悪くて何々君骨折しましたよと。すると飛んできますよ、今時の時代ですから、役員や取締役が病院に、すいませんでしたとあやまりにきました。今の時代は保証の時代ですから、損害賠償を要求したとしても不思議じゃない。そこで黙ってしまうと障害者というのはいつまでたっても大事にされないのだ。ここはやはり声を出して損害賠償を請求するというのが当然という、そういう考えも出ます、その善し悪しは別として。

その役員に対して彼はどう答えたか、考えてみてください、自分だったらどう答えるか。

その少年の答えは、「大きい問題にしないで下さい。自分は骨折したが、大きな問題にすると今度が自分のように仲間が街に行った時に手を挙げてもタクシーが止まってくれなくなります。」つまり、障害者が手を挙げたり、車椅子の人が手を挙げても、タクシーに乗せて何かあると損害賠償を要求されたらたまらないからとタクシーの運転手は避けますよね。それじゃ、友達というか仲間に対して、自分と同じような境遇の人達に対して、街に出かけにくくなる。だから騒がないでください。

そういった方が良いかか悪いかということ、僕が今ここで話しているのではないのです。つまり常日頃人の世話を受けながら生きてる彼が、ここまで友達を思いやる心を持っていることはすごいことだという話ですよ。つまり人のことを心配し、人のことを憂えているという話です。

ここで国語の時間にするつもりはないのですが、少し横道にそれて、人のことを憂うと



書いてなんて読みますか？ 若干とんち的ですけど。誰か分かる人？

優しいという字になるでしょ。人を憂う、にんべんに憂うと書いて優しい。人のことを心配し、人のことを思いやることが、人間にとっての本当の優しさというのは、そういうことだということです。さらに優しいという字は優秀の優でしょ？ 皆さんが試験を受けたら、先生に優をもらったとかいうでしょ。優れていることだという話ですよ。

日本の漢字文明というのはすごいですよ。先ほどいいましたように難しく考えないで、今、自分の知っているこの漢字の意味は一体何なんだろうと、解らなければ辞書を開けばいい。そうすると、何かもやもやしたことを解決していく糸口が見つかりますよ。

ついでに福祉の仕事する意外に当然看護師さん、保育士になりたい方いらっしゃると思いますが、どうしてそういう道を進むのですかと聞かれた時に何と答えるか。「そういう人達のためにもお役に立ちたいです。」これは模範解答です。これは模範解答ですけど僕が採用する側でしたら落としますね。人を憂うと書いて優しいと読みましたけど、同じような意味あい、人の為にと書いて何と読みますか？ もう分かるでしょ。誰か手挙げて、人の為と書いて何と読みますか？

(生徒：はい。…) もっと大きい声で(生徒：偽り) そう、偽りです。つまり人の為に福祉を勉強するのであったら辞めてください。傲慢すぎます、僕に言わせると。まず自分自身が幸せになろう、自分自身が幸せというのもを実感したい。そのために障害をもった方とか老人の方をお世話することで自分自身が幸せになりたい、だからお世話させてください、だから私は福祉を目指したのですというのであれば、僕は二重丸で採用します。人の為、人の為などとかっこいいこといわない方がいい。人の為、人の為なんて、みんな偽りです。僕の勝手な解釈かも知れませんが、日本のこの漢字の威力というのはすごいものがありますね。

また本論に戻りまして、さらに優しさの話を。

筋ジスの患者さん達や重症児の夜の世話は、看護師さんが2人か3人です。2人か3人で40人程を看ています。うちの病院全体で人工呼吸器をつけている患者さんが60数人います。これは大変ですよ、人工呼吸器の調子が悪かったら死んでしまうということです。看護師さんは神経がまいりますよね。その中でさらに具合が悪くなると個室へ。友達、仲間が個室に入ると、ナースコールがぴたっと少なくなる。ナースコールとは何かを説明しなくてははいけませんね、つまり看護師さんをお呼ぶためのベッドの脇のボタンです。筋ジスの方は、さっき話しました通り自分で寝返りを打つ力もない、筋力的に。

皆さんは無意識に一晩に2、30回は寝返りをしています。これがね、今日帰ったら手足を縛って寝返りしないで寝てごらん。体がしびれてきますよ。彼らは自分自身の力では寝返りができない。ですから、夜中にもナースコールで看護師さんを読んで、今まで右向きだったのを左向きにしてくださいとか、お願いするのです。それがね、仲間が生きるか死ぬかの状態になったら、ナースコールがぴたっと少なくなる。自分の体がしびれてきて寝返りさせて欲しい、けどここでナースコールで看護師さんと呼ぶと具合の悪い彼の所に看護師さんに行ってもらって時間が少なくなる。だから辛抱してるのです。口では言わなくても、こういう優しさというか、人を思いやる心というのは、やはり正直いって僕らは負けにいると思うのです。

〔自己主張とは〕

みんなは色んなことができるのに、周りの人に気遣いしてますか、思いやっていますかという話です。本来、みんなも彼らと同じように優しさを持つ、そういう人間なのです。

それをどうして素直に表現しないで、どこかで突っ張ったり、周りの迷惑を考えずに自己主張するのか。

自己主張することが間違っているというつもりはありません。大いに自己主張して欲しいと思います。ただ、今まで話してきたようなことから振り返って考えてみますとね、人間のあり方、人のあり方の中での自己主張であって欲しい。

では、自己主張する自分をどう見つけていくかについて、話したいと思います。

自分だけで自分自身のことを解決しよう考えてもできないという話です。

自分自身のことを解決しようと思ったら、人と人のあいだ（間）、つまり人とコミュニケーションをとらなくてはならない。ですから、人間という漢字は人と人の間と書くでしょ。

学校に行きたくない、友達にいじめられる、だから家に引き隠って自分で考える、どうのこうの理由をつけてもそれでは、僕から言わせれば、解決策は見つかりません。

なぜか。それは、人との関係で始めて自分自身というものを認識できるからです。

それをね、部屋に閉じ隠り、部屋に入って来て欲しくないから鍵をかける。つまり、それでは一番のコミュニケーションをとるための最低条件の家族とのコミュニケーションを拒否している。みんなさんの中に、そういう人いないかな、いるかもしれませんね。つまり、みなさん自身が拒否しているという話です。

自分が自分であるということを真剣に考えたいのであれば、鍵をかけちゃいけないのです。まず母親と、父親と大いに議論してください。「そんなこと言われても阿部さんのいうほど親は自分のことを解ってくれない。学校の先生も解ってくれない。相談の仕様がないう。」という返事が多分返ってくると思います。

では、お母さん、お父さんが自分のことを心配してくれないというなら、まずあなた方自身がお父さんやお母さんのことをどれだけ心配してるかという話です。自分にこうあって欲しい、人にこうあって欲しいと望むのであれば、まず自分が相手に対して、自分の望むような存在であろうと努力してるかという話です。

ですから、結論的にいえば、悩めば悩むほど友達と係わらなくてははいけません。悩めば悩むほど人と係わらなくてはなりません。そうして人と係わりあって話をして、自分のもやもやしてることを言葉で表現していくと、そのもやもやが整理できていきます。そのもやもやを言葉で表さないで黙って頭の中で考えていても、自分自身でそれを整理することはできません。つまり整理できないので、自分の悩みが何であるかが解らないのです。だからこそ親や友達と話すのです、先生と話すのです。

さっき言ったように、「解ってくれない。解ってくれない。」とそこで切るのではなくて、じゃあ解ってもらうためには、自分はどう努力しなくてはいけないのかを考えることです。いい友達が欲しいというのであれば、まずいい友達であろうと努力することです。

[自分を見つめるもう一人の自分]

みなさんの自分の中にも、2人の自分がいると思います。

感情のままに、自分の好きなように行動したいという自分がいます。

そうした自分、例えば登校拒否したいと思っているが、そういうことでいいのかな、どうなんだろう、そういう自分自身を客観的に見つめる自分もいます。

ですから、人間には2人の自分がいるとも考えられます。2人のみんながいるのです。

その自分自身の中で、2人の自分同士で大いに葛藤してください。

僕がいうまでもなく、みんなは多いに葛藤していると思います。葛藤しているからこそ、時には自分勝手な自分がバーンと飛び出して、色んなこと起こして社会的に色々問題となる。大人達は今の17歳がなかなか理解できないという。当たり前です。理解できない程みんなは真剣に生きようと悩んでいる。だから大いに悩めばいい。「悩みの後に進歩あり」といいますからね。大いに悩んでください。

僕のいう悩むということは、自分自身の中で2人の自分の葛藤をして欲しいということです。その過程の中で、自分の好き勝手なことだけをするのが、自分の幸せではないということに気づくと思います。やはり人との関係の中で、自分はどうなんだ、どうあるべきなんだと考えるということが、自分自身のアイデンティティーにつながっていくのだと思います。

まあ、そうはいつでもなかなかいい友達が見つからないというのであれば、友達にはなれないかもしれないが、僕の所には FAX ありますし、メールもありますから遠慮なく、「自分自身の考えをまとめるために阿部さんを使おう。」と思ってもらっても一向に構いません。電話番号と FAX 番号は鍛先生がご存知ですから後で教えてもらってください。僕を大いに使ってください。そして僕に話をする事で、自分自身の考えを整理していく、そうした作業を大いにしてください。

人間は何でことばをもっているのか。自分自身を理解してもらうためにことばを持っているのです。人類は、自分の気持ちを伝えたいがためにことばを持ったのです。そうであれば、そのことばを使わない手はないのです。それを自分で閉じ隠って自分だけであれこれ考えても解決しないという話です。

まあみんなの持っている問題は、「阿部さんの思うような単純ものではないよ。」というかもしれません。でもね、あまり難しく考えない方がいいですよ。我々に共通してるのは、人間ということですから、人間なんてそんなに複雑なものじゃないのです。複雑だと勘違いしているだけです。

例えば、人間は指を5本持っていますね。それぞれの指の存在理由というものを考えたことありますか。この説明の問題は、まだ世界中で解決していないということです。この5本の指、人間はなんで5本の指になったのか。6本じゃなく、4本じゃなくなぜ5本なのか。こんなに人間がいて、それぞれが手を持ち、それぞれの手の動きを日々見ていながらこの指一本一本の存在意義が解っていない。つまり、人間というヒト科の生物については、まだよく解っていないことが多いのです。それを解ろうと努力することが、考え続けることが生きるということことかもしれませんね。

筋ジスの人達を見ていると生きるとは、今まで話してきたように時間ではないのです。80才まで生きることが生きることじゃないのです。

筋ジスの彼らの中には、ひょっとすると明日朝自分は目が覚めないかもしれないという症状の中で生きている方もいる。

今日帰ると夜寝ると思います、今も寝てる連中がいますけど。

明日朝、目が覚めると無意識に思うから寝られるのです。ひょっとしたら明日朝目が覚めないのではとそう思って寝て御覧なさい。脅かしじゃない、眠れるはずがない。

そういう状況であなた達と同じぐらいの年齢の方が生きているという話です。

生きよう、どう生きようかという部分では、みんな同じなのです。時間の長さではないのです。

〔本物とは〕

今日は福祉について話してきましたが、この中にも福祉関係を目指す方も多いと思いますので、先ほども言いましたが福祉を目指すというのは大変なことで、今そのいい例をもう一つ思い出しましたので、敢えて更に触れておきます。

私の病院には高校生がボランティア体験学習で延べ一夏に 60 人程来ます。他にも中学生のボランティア体験学習、保育実習生、大学生も卒業論文や修士論文を書くために出入りしています。それ以外に一般のボランティアの方々が出入りしています。こうした訳で、年間延べ約 2 万人ほど出入りしています。そういう方を受け入れるのも私の部署の仕事です。

ある保育実習生の話です。入浴介助を一緒にした時です。実習生が時計をしていた。

僕は、実習生に「何々さん、時計を外して」と言った。その学生は何と答えたか。「先生、大丈夫です。私の時計、防水ですから」。そんなことを僕は心配してるのではない。

この中に、僕が心配している意味が分かる人いるでしょ。お風呂の時に時計をしていて、お風呂に入るとお湯に浸ってふやける子どもの肌に金具が当たったら傷がつき易いという話です。ですから「時計を外せ」と言ったのです。学生の時計が防水だろうがなんだろうが、そんなことは僕には関係ない。

つまり、彼らに何で福祉を目指しているのか、保育士を目指しているのか、教師を目指しているのかと聞くと、「子ども達のために少しでも役に立ちたい」、なんてカッコいいことばかり。こういう現実の場面、場面を見ていると、「こりゃあ、本物じゃない」と一瞬で分かりますよ。

ですから、福祉を目指す生徒諸君には特に言っておきたいことは、「仕事だから、8 時間労働だからその時間帯だけしっかりやればいいんだ。」なんて大間違い。時間外の一挙手一投足も、対象となるご老人とか障害者に見られて、「この人は信頼できる人だな。こ

の人は上辺だけの人だな」と。そこに相手との本当の信頼関係というものが育っていくのです。

人と人との信頼関係というものは、共有体験、その人とどれくらい同じ体験をするかによります。その中でコミュニケーションが深まって行きます。

#### 〔コミュニケーション〕

先ほどの校長先生からの紹介にありましたように、「コミュニケーション障害」が僕のライフワークですから、ここで「コミュニケーション」について、少し触れさせてください。

今ここで、一方的にしゃべってきましたが、話し言葉としてしゃべったのは僕です。でも僕は、皆さんとコミュニケーションをとりながら話してきました。目とか、表情とか、首の傾きとか、手のしぐさとかを見ながら。

つまり、コミュニケーションというのは、ことばだけでなく、それを発する全体像から受け取られるものが大事なのですね。ですから、みんなもあまりことばで理解してもらえなかったとか、そんなことではなくて、ことばとしては理解してもらえなかったけれども、その相手の表情を見て、「ああ、聞いてくれたな」とか、そういうところを読みとっていないとね。それが、コミュニケーション。もし、みんなが全員、デパートのマネキン人形のようにずーっと800ヶ並べられて、「話をしろ」と言われても、僕はこんなに1時間も話はできない。僕はみんなの表情とか仕草を見ながら、コミュニケーションをとっているからこそ、話ができてきたということです。

あまりことばだけに拘らず、人とコミュニケーションを深めていってください。

#### 〔目的と手段〕

もう一つ、これだけはどうしても伝えておきたいので。

もう詳しく説明する時間もないので結論からいわせてもらいます、目的と手段を決して取り違えないように。洲高は進学率が高いでしょうけれど、いい大学に入ることが、人生の目的ではないということです。

勉強して、いい大学、いい学部に入ることが目的のごとく教えられてきてるから、その教育の弊害も出てきています。社会的な問題で言えば、オウム事件がいい例です。彼らの幹部といわれる人は、東大卒であったり、京大卒であったり、阪大卒でしょ。僕なりに言

えば、学問は何のためにするかという、自分自身に対する問いかけが足りなかったがために、いくら最高学府といわれる所で知識を得たとしても、彼らは人の幸せのためにその知識を使ったかという話です。

ですから、迷うのであれば迷うほど大学に行ってください。自分探しを大いにやってください。自分探しをやるということは、自分自身の中で自我と自己とを葛藤させて、自分自身のアイデンティティーを見つけていくことです。自分は何がやりたいのか解らない、どこの大学に行けばいいのか解らないというのであれば、家庭的に、経済的に許されるのであれば尚のこと、大学に行ってください。そして4年間葛藤する時間を確保してください。なにもいい大学に入ることが目的じゃないのです。学問することは手段であって、目的ではないのです。学問を何のため活かすかということ、自分自身で葛藤して見つけてください。

大学なんてどこでもいいと思います。後は社会に出てからの自分との勝負だからね。

ただ僕が大学に行ってくれというのは、できればその自分自身を今見つけられないのであれば尚のこと、4年間、大いに悩んでもらいたいということなのです。「悩みの後に進歩あり」といいますから、自分自身で悩んでください。何かは見つかると思います。

[おわりに]

皆さんの参考となるような話が出来たかどうか。話したいことは山ほどあるのですが、またそれは何か機会ありましたらお話できればと思います。

最後に、私事で申し訳ありませんが少しだけ時間をください。

実は、40何年前、僕は昭和38年卒業なのですが、今でもやっていますよね、洲高祭。当時僕は、文化委員長をやらされていました。一方で演劇部の演出も手伝っていました。演出なんて僕には出来ないが、ただみんなでワーワー何かをやるのが好きで、面白そうだから「俺に演出させろ」と無理やり演劇部に一時的に参加させてもらった。洲高祭の一環のステージ発表の日になっても、大道具ができ上がらなかった。ステージ発表の最初に文化委員長挨拶というのがあり、その時間も講堂の裏で大道具を仕上げている僕を誰かが呼びにきました。未完成の大道具にかこつけて行かなかった。それを、今思っても不思議ですけれど、それを許してくれたのですよね。その後も、先生も、誰も呼びに来なかったし、後で怒られもしなかった。

演出させろとねじ込んでも受け入れてくれたこと、挨拶をすっぽかしても叱られなかった

ことなどを今思うと、洲高というのは本当に懐が深いというか、そこで教育されたということは、本当に恵まれていた、そう思います。

こういう校風の洲高に育ててもらったお陰で、家内に「お父さんはひとり青春している」といわれますが、精神年齢は高校生のままです。でも、そのお陰で、仕事柄若い人と話す機会が多いのですが、この歳になっても違和感なく若い人と話すことができます。

それはさておき、鍛先生から今回の話をいただいた時、ふと洲高祭当時のことを思い出しました。「ああ、あの時の文化委員長としての挨拶をすっぽかしたお詫びと、懐深く教育してくださったことへの感謝を伝える機会として、在校生の前で、因縁の演壇に立てということかな」と、お引き受けしたしだいです。

そういう訳で私事の想いの1時間でもありましたので、退屈な時間だったかもしれないし、ある人にとっては参考になる時間だったかもしれません。

取りも直さずこうした時間を作っていただいた先生方と、お付き合いいただいたみなさんにお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

(拍手)

(先生) 生徒から質問はありませんか。福祉関係を希望する学生もいることでしょう。

何か質問は。

(生徒) 国立療養所というのは、今日本にどれくらいあるのでしょうか。

これはね、各県に少なくとも2、3ヶ所あります。兵庫県でいえば、青野原病院、兵庫中央病院という所があります。結構ありますよ。ただ国立療養所は平成16年から行政改革の影響で独立行政法人に移行します。重症心身障害児というお子さんを国立で引き受けている所が全国で79箇所。筋ジストロフィーを引き受けている所は、全国で26箇所あります。

こんな答えでいいですか。

(生徒) 興味があったので聞いてみたかったのです。

あなた達は青春切符を使えますので夜行列車を乗り継いで仙台においでよ。うちの病院



で1週間でも2週間でも実習というか、ボランティアしたいというのであれば、うちの家に泊めてあげますから。

施設見学でさーっと見るだけでは本当のところは何も見えないですよ。

この中に看護師を目指す人がいて、幻滅させて申し訳ないが、看護師は白衣の天使といわれているでしょ。でも現場の中では、そうは思えないような人もいます。それが現実であり、社会なのです。だからこそ、そういうところも実習して感じて、じゃあ私だったらどうするかを考えて欲しい。やはり、現実の人と係わり合う中で、自分というものを作り上げて行くということが大事じゃないかと思うのです。

機会があれば、どうぞいつでも仙台に来てください。

(生徒) ありがとうございます。

(先生) 他に質問は。

(生徒) 看護の道を目指しています。「自分の幸せのため」といわれて胸を打たれたような気がします。看護師として人と係わる際に、してはいけないことはどんなことですか。

簡単明瞭。

僕は重症心身障害児病棟に勤めているのですが、そこにスローガンを張ってあります。

「自分、我が子に言われたくない、されたくないことは、言わない、しない」。

つまり自分のしようとしていることは自分にとってもして欲しいことなんだろうか、どうなのかということ、振り返りながら看護というものを考えていけばそんなに難しいことじゃないのです。

あなたは看護師を目指してていらっしゃるんですけど、看護師の原点というのは？

(学生) ナイチンゲール。

そう。ではナイチンゲールは何をした人？

(学生) ……。

ナイチンゲールは何をしたか。看護師の理想像といわれるナイチンゲールは何をしたか。

クリミア戦争で傷ついて明日死に行く兵士に対して、「自分はひとりの人間として何を  
してあげればよいか、自分のできることは何なのか」と思い、死に行く兵士の手を取って  
一晩あなたは一人じゃないのですよ、あなたのことを生きてほしいと願う私がいるのです  
よ、と。

人間というのは一人ではないのですよ、さっきいった憂う人がいるのですよと、それだ  
けですよ、ナイチンゲールがしたのは。

つまり、ナイチンゲールは傷ついた兵士を精神的に抱擁したのです、包み込んだのです。

そうすることで兵士は、自分ひとりで死んでいくんじゃない、ああ自分にも心配してく  
れる人がいたんだな、と心安らかになるということですよ。

これはね、みんな自分ひとりだと思ふから寂しく、時に辛くなるのですよ。みんなのこ  
とは、絶対にいろんな人が心配してます。心配という漢字に「り」をつけてください。

なんて読む？

(生徒) 心配り。

そう。

心配りということばを見ると、すごく優しく、すばらしいことばなのですね。

ですから、みなさんがお父さん、お母さんに「あなたのこと、お父さん、お母さん心配  
しているのだから」なんて言われると、「なんだ、俺そんなに迷惑掛けてるのか」と反発  
したくなるでしょうが、その心配ということばを聞く時に、必ず「り」を付けて聞いてく  
ださい。「ああ、お父さん、お母さん、俺に心配りしてくれてるんだなあ、ありがたいな  
あ」という気持ちになる。また、お父さん、お母さんのいうことを聞く心の余裕ができま  
すよ。

ついでですけども、今の方、英語で看護師さんをなんていう？

(生徒) ナース。

ナースの語源を知ってる？ ナースという英語の語源を知っていますか？

ナースということばの語源のギリシャ語では、抱擁する、包括するという意味なのです。

このことは看護学校に行くと、必ず習うと思います。僕は看護師さん達に「ナースの語源を知ってる？」と質問すると「学びました」と。

「学んだのであれば患者さんに対して、少しはそれを実践してよ」と言いたくなる人も中にはいますがね。

それはさておき、看護師を目指すのであれば、難しいことを考えなくていいです。「ナースの語源とはなんだろうな」とか、そういうものは辞書を引けばちゃんと書いてありますよ。そこから自分自身の看護像を作っていけばいいのです。そうすると、自分がなりたいような看護師さんにきつとなれますよ。

ですから、何事もあまり難しく考えない方がいい。単純明快に考えていけば、必ずヒントはありますよ。

(先生) では、生徒代表、お礼の言葉を。

(生徒代表)

『今日は高校生の僕たちが自分自身を考える上で大変貴重なお話をお聞かせいただきました。

授業や学校生活の中でも自分らしさや他人を認め合うことの大切さを学びます。今日は阿部先生のお話から、それらをより具体的に深く考えることになりました。

お話の中の「福祉とは幸せであり、自分を考えることである。また、人間はコミュニケーションの中で自分というものを見つけられる」という言葉には、特に興味と共感をもちました。

これから、僕たちは、広い社会に出て行きます。その中で生きる意味を考え、そして悩み、答えが見つからなくても、それを追い求めていくことの大切さを忘れないようにしたいと思います。

そして、「自分を認めるという考え方」において、自分に優しく、人にも優しく生きて行けるようにしたいと思いました。

今日は、本当にありがとうございました。

生徒代表      ○田      ○久      』